



新春のご挨拶

圭陵会会長 赤坂俊英

新年明けましておめでとうございます。圭陵会員の皆様も新しい年をゆっくりとお過ごしと思います。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの蔓延もまだ続いては居りますが、大分落ち着いて参りましたので、圭陵会の諸会議も現地に来られる先生方が増え、顔を拝しながらの会議開催で嬉しく思います。しかし、世界はまだあちこちで戦争があり、日本では物価高騰と医療費削減の方針の中で医療業界は大変な状況にあります。

今年の春4月には我が母校の岩手医科大学は私立岩手病院設立から127周年、また、母校の同窓会として創立された圭陵会は92周年を迎えます。さらに、圭陵会の中に歯学部同窓会、医学部同窓会が創立され45年が経過し、ここ2～3年の内に薬学部同窓会と看護学部同窓会が加わり大きな同窓会組織となります。つまり大きく変化する圭陵会も会則や活動内容も時代に即した変革が求められます。これまで医学部と歯学部が仲良く運営してきた圭陵会に、薬学部と看護学部が加わり、この4学部が連携しながら纏まり仲良く今まで以上に大きな力で母校の応援をして行きましょう。

更にこの4学部を卒業した方々が、全国に散らばって医療提供にあたりますので、その活躍の様子を見るために、全国の圭陵会77支部に圭陵会の幹部の方々に各支部を訪問して頂き各支部の状況を把握するとともに、母校の状況も報告して参ります。

矢巾地区の我が母校の屋上から眺めると、西に南昌山、北に岩手山、北西に姫神山、南東に早池峰山が見えます。校舎や病院から少し離れると見事な田園風景が広がり、学生諸君や勤務者の心にこれらの風景が永遠に残るでしょう。矢巾キャンパスには2000名の学生が勉学し、矢巾本院の医師・看護師・技術士を含むと3000人が勤務し、1000床の患者を管理治療する北東北・北海道で最大規模で、医療提供内容も最先端治療の病院となっています。

しかし古い圭陵会員にとっては、思春期を過ごしたのは内丸地区であり、北の姫神山、北西に岩手山、南西に南昌山が思い浮かびます。内丸地区の1号館は東京駅や旧岩手銀行本店の設計にあたった葛西萬司氏の設計であり、大正ロマンそのものです。内丸メディカルセンターの充実が期待されますが、1号館を残し内丸メディカルセンターの充実を図るにはまだまだ多くの資金援助が必要になりますので、圭陵会員には更なる母校への応援をお願いして新春の挨拶に代えさせていただきます。



新年のご挨拶

学校法人岩手医科大学 理事長 小川 彰

新年あけましておめでとうございます。

今年は新年早々能登半島地震が発災し、13年前に起きた東日本大震災当時の大変な状況を思い出された方々も多かったのではないかと思います。現在、世界は未曾有の不安定さに見舞われています。新型コロナウイルス感染症の蔓延は未だ継続し、自然災害の脅威も衰えることがありません。ウクライナやガザでの紛争は、世界の不安定さを更に際立たせています。これらの出来事は、私どもの生活だけでなく、本学の経営にも深刻な影響を与えています。

これまでも折に触れて述べてまいりましたが、アベノミクス、東京オリンピック特需、東日本大震災の復興特別会計の終了、円安、そして段階的な消費税の増税（3%から10%）が重なり、経済的な圧力が増大しております。これに対応するため、附属病院の整備費用を補う目的で、200億円の借入れを行うという困難な決断を下しました。

なかでも消費税は、控除対象外消費税（損税）の扱いであり、大学経営の大きな痛手となっています。一般の事業者と異なり、医療機関では社会保険診療を行うための仕入れに支払った税額を控除することができません。特に特定機能病院である本学附属病院では最先端医療や難病治療に対応するための診断機器・高額医薬品にかかる控除対象外消費税が大きな財政的負担となっています。また、国からの財政補助に関しても、国立大学は国庫から運営費交付金を受け取っており、

これはその経常収益の約26.8%に相当します。しかし、私立医科大学にとっては、同様の経常費補助金が事業収入のわずか2.5%に過ぎません。この格差は、私立大学の経営にとって大きな課題であります。

矢中の附属病院は2019年に開院いたしました。これから軌道に乗せていこうという矢先に新型コロナウイルス感染症が追い打ちをかけ、頼みの綱だった公費支援（病床確保料や診療報酬上の特例措置）は今年度末以降停止となる見込です。

これまで医療の保全・充実と次世代医療人の育成のための教育・研究に誠意をもって対応し、貢献してきた本学の役割は極めて大きく、重要な責務を負っております。一方で、近年の社会構造の変化から経営に直結する課題は山積しております。「内憂外患」の外患部分を嘆いているばかりでは、問題は解決しません。まずは年初にあたり、教職員の皆様に本学の現状を共有し、一丸となってこの窮状を打破するようお願い致したところであります。

最後に、同窓生の皆様は全国各地で大変ご活躍され、「外から岩手医科大学に光を当てる存在」としてご努力をいただいているわけであります。皆様が全国各地で活躍している時に、大学が誇れる大学となれるように、教職員一丸となって努力をしていきますので、どうぞ今後ともご支援を賜りますよう心からお願いを申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。



謹賀新年

岩手医科大学 学長 祖父江 憲 治

新年、明けましておめでとうございます。圭陵会の先生方におかれましては、御家族の皆様と健やかな新年を迎えられましたことと、お慶び申し上げます。先生方には常日頃から温かい御理解と御支援を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

昨年は一昨年より続くロシアのウクライナ侵攻とウクライナの反撃に加え、昨年後半からはイスラエルとハマスの戦闘に始まる東南アジア地域の政情不安、さらに気候変動による異常気象に起因する世界レベルでの天災多発など、不安材料の多い一年でした。国内で猛威を振るったコロナ感染症がようやく下火となってきましたが、インフルエンザを始めとした感染症が再流行の傾向にあり、国内の政情もこれまた定まらない状況の中で、新年を迎えました。全てが不安定な状態にある中で最も大切なことは、時勢の流れの中で我々の対応に多少の変化があるにせよ、情報過多の社会風潮に惑わされることなく、我々は揺るぎない思考と価値観を持って、物事を判断していかねばならないと痛切に感じます。

矢巾新病院移転以来五年が経過し、北東北に

おける本学の医療中核拠点としての役割と位置付けは、大学教職員の総力を挙げた活躍と圭陵会の先生方のご支援で確実に定着しつつあります。次に、内丸メディカルセンターと歯科医療センター・歯学部の新改築を含めた内丸整備計画につきましては、これまでコロナ渦の大幅な医療収入減と歯学部・薬学部入学生減に伴う学納金収入減などで、当初の整備予定を大きく見直さざるを得ない状況に至りました。現状の業務改善を図ると共に、財政状況の抜本的な改善に努めております。また、歯学部の教育と運営改革、薬学部の教育体制強化などにより、両学部の国家試験合格率向上と受験生や在校生にとってより魅力ある学部造りを進めてまいります。医学部と看護学部では、これ迄以上に学生諸君が活躍できる環境を整えてまいります。また、在校生のみならず、卒後教育につきましても、四学部でそれぞれの特色に応じた対応の違いはありますが、本学卒業生として胸を張って活躍出来るようバックアップ体制をさらに構築してまいります。

先生方におかれましては、御自愛下さりさらなる御活躍を祈っております。